

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 徳永 悠					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	英書講読										
【授業の概要・目的】											
<p>今日、国境を越えた人間の移動はグローバル化の中でますます活発化している。日本社会でも外国籍の人々は1990年の107万人から2017年の247万人と二倍以上に増えており、移民とその子孫が日本各地で経済や文化の発展に貢献している。一方で、彼らに対する偏見や差別、格差も残っている。この授業では、Khalid Koser, <i>International Migration: A Very Short Introduction</i>, 2nd edition (2016)とSucheng Chan, <i>Asian Americans: An Interpretive History</i> (1991)の一部を読む。19世紀後半～20世紀前半にアメリカ合衆国に渡ったアジア人移民 / アジア系アメリカ人の歴史に関する英語文献を読み解きながら、国境を越えて人が移動する理由、移民の生活や権利、移民に対する差別、移民に関する政策など現代においても重要なテーマについて英語で理解する力を伸ばすことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
1) アジア人移民 / アジア系アメリカ人の歴史の理解に必要な英語読解力を習得する、2) 現代の移民の理解に必要な英語読解力を習得する、3) そのうえで、移民に関する議論について歴史的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業概要説明 / なぜ移民について学ぶのか  第2～4回：KoserのChapter 1, 2, 3 (計36ページ)を読み、現代の移民の状況について概観する。  第5～14回：ChanのChapter 1, 2, 3, 6, 7 (計99ページ)を読み、アメリカ合衆国に渡ったアジア人移民 / アジア系アメリカ人の歴史について学ぶ。  第15回：授業まとめ</p> <p>毎週、授業までに該当範囲のテキスト(10ページ程度)を読んでおく。毎週の該当範囲のうち、最も印象に残った段落を一つ選んで翻訳し、その段落を選んだ理由を書き添えた「翻訳レポート」(A4・1枚)を授業開始時に提出する。授業中は15人程度の受講者に、自分が翻訳した段落について発表してもらう。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>翻訳レポート：78点(13回×6点)  期末レポート：22点(1回×22点)  到達目標の達成度に基づき評価する。期末レポートについては学期中に説明する。</p>											
【教科書】											
<p>Khalid Koser 『International Migration: A Very Short Introduction, 2nd edition』(Oxford University Press, 2016)  Sucheng Chan 『Asian Americans: An Interpretive History』(Twayne Publishers, 1991)  該当範囲のテキストは担当教員が印刷して授業中に配布する。</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

毎週、授業までに事前に伝えた該当範囲のテキスト(10ページ程度)を読んでおく。毎週の該当範囲のうち、最も印象に残った段落を一つ選んで翻訳し、その段落を選んだ理由を書き添えた「翻訳レポート」(A4・1枚)を準備する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。